

## 令和5年度「関係団体等へのアンケート」調査結果

公益社団法人北方領土復帰期成同盟  
北方四島交流北海道推進委員会

## I 調査概要

## 1. 調査目的

これまで、北方四島交流事業にご協力いただいた関係団体や関係者の皆様と連絡を保ち、連携を図っていくことや、今後の必要な取組を検討するため、アンケート調査を実施しました。

## 2. 調査対象

H29～R元年度にご協力いただいた生活文化専門家、受入関係団体、大学、高校、受入市町村、ビジット家庭等

## 3. 調査手法

郵送又はメールによる送付

## 4. 実施期間

令和5年10月～11月

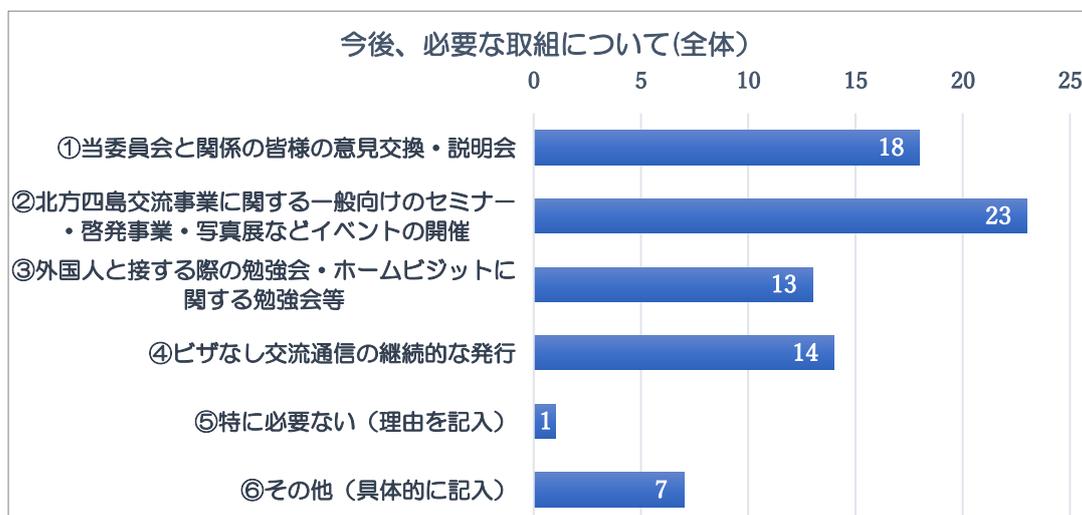
## 5. 発送数及び回収数

区分	発送数 a	返戻数 b	調査実施数 (a-b) c	有効回収数 d	有効回収率 (d/c)
生活文化専門家	6		6	2	33.3%
受入関係団体	24		24	9	37.5%
大学	5		5	3	60.0%
高校	3		3	3	100%
受入市町村	8		8	7	87.5%
ビジット家庭	46	4	42	14	33.3%
その他	2		2	1	50.0%
<b>計</b>	<b>94</b>	<b>4</b>	<b>90</b>	<b>39</b>	<b>43.3%</b>
(うち郵送数)	(85)	(4)	(81)	(30)	(37.0%)
(うちメール数)	(9)		(9)	(9)	(100%)

## Ⅱ 調査結果

### 1. 今後、必要な取組について

Q：当委員会と関係の皆様が連絡を保ち、連携を維持していくために、どのような取組が必要だと思いますか。（複数回答可）



「②一般向けセミナー等」が23件と最も多く、次いで、「①意見交換等」が18件、「④ビザなし交流通信の発行」が14件などとなっている。

#### ⑥ その他（具体的な取組内容例）

情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ビザなし交流通信の SNS 等による閲覧（大学）</li> <li>・若い世代へのコンテンツ（動画・SNS・アニメ等）の充実（ビジット家庭）</li> <li>・継続的な情報発信が必要（その他の団体）</li> </ul>
交流会・イベント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・30年間で過去に行った人と最近行った人との座談会（高校）</li> <li>・各市町村内での団体同士の連携（ビジット家庭）</li> <li>・ビジットが開催できるようになったら、関係者を集めて経験談を含めた会合（ビジット家庭）</li> <li>・「えとぴりか」の活用（ビジット家庭）</li> <li>・関係団体・関係者に役割を持たせる事業・イベントが必要（受入市町村）</li> <li>・交流事業に関する意識を持ち続けることを目的にするのであれば、一般の方と同様にセミナー等で広く関心を持ってもらうことが必要（受入市町村）</li> </ul>
当委員会について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ビザなし交流通信などによる推進委員会の存在意義等の周知（大学）</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年に2～3回（ロシアの言葉、歌、踊りそれぞれの）活動の発表（ビジット家庭）</li> <li>・日本側の町村別の踊りを、そこに住んでいる人から勉強し、外国人との交流で使える引き出しを沢山作っておく（ビジット家庭）</li> <li>・町内の関係団体・関係者は、本来別の目的があって活動している団体等であり、現状においては、交流事業に関する意識は希薄にならざるを得ない（受入市町村）</li> <li>・当校として一番大切なのは、直接人と人の接触にあるため、それ以外は学生にとってあまり魅力的とは思えない（大学）</li> </ul>

## 2. 取組の時期について

必要な取組を行う場合の実施時期については、北方領土の日、強調月間、イベントが無い時期、夏休みやゴールデンウィークなど、いろいろな意見を頂きました。

## 3. 北方四島交流事業に関するご意見

<b>事業再開</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・国際情勢等で交流事業実施が厳しいことと思うが、事業が再開されることを希望します。また、領土返還運動の継続は必須条件と考えます。(受入関係団体) 等</li> </ul>
<b>今後の取組</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・取組みを進めるのには難しい時期だと思う。しかし、交流事業自体は有意義なものだと思うので、今後も継続した取組みをお願いします(受入関係団体)。</li> <li>・日ロ交流に再開の兆しと目途はついていません。残念でなりません。民間レベルでやれること、やっておかねばならないことは、まだまだ残されています。推進委員会の活動の継続発展に期待を寄せています。(大学)</li> <li>・今後の取組み①～③は推進委員会事業として重要であり、継続的發展を求められています。各事業の目的と対象が異なるため、年度日程と連動させて柔軟に取り組みのが妥当かと思われます。ロシア語を学ぶ学生にとっては、勉強会が学外組織との接点になり、かつ、実践現場を知る大切な機会になります。積極的な呼びかけをお願いします。(大学)</li> <li>・今後の取組み③の勉強会等については、オンラインで行うのも良い。(大学)</li> <li>・受け入れ前に同様の体験をした人同士話し合いがもてると皆が受け入れしやすくなると思います。今後もできることはさせて頂きたいと思っています。(ビジット家庭)</li> <li>・一般の方、学生に向けて関心を持っていただける機会があると良い。(ビジット家庭)</li> </ul>
<b>啓発</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・交流事業が難しい状況ですので啓発事業に力を入れて下さい。(受入関係団体)</li> <li>・四島交流啓発ポータルサイトのハッシュタグのルール作りと周知を！(ビジット家庭)</li> <li>・一般の方に広く啓発事業を行う必要があると思います。同じ人ばかりの集まりではなく、交流ができると良いと思いますが、むつかしいのでしょうか。(ビジット家庭)</li> </ul>
<b>その他</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・この度のお便りに接し大変おどろくと共に嬉しく思っております。当町にも北方領土関係の団体はいくつかあるようですが、それぞれで活動していて横の繋がりはないように思われます。今後の活動について何が出来るか答えが見つかりません。(ビジット家庭)</li> <li>・署名活動について。どんなルートでどこに届きどれだけの効果があるのか知りたい。また、手ごたえのある成果がなければ活動者が減っていきます。高校生の主体的な活動が新聞に載っていて頼もしいと感じる反面持続出来るかが課題と思う。(ビジット家庭)</li> <li>・町内では、一般の方々が北方四島について接することが少なく、町の大きなイベント会場での署名運動ぐらいのように感じます。ビザなし交流も受入しただけで終わっていますので、なかなか理解されるのはむずかしい様に感じています。(ビジット家庭)</li> <li>・「大変な時期であるが、続けていきたい」(ビジット家庭)</li> <li>・「オンラインや手紙での交流ができないか」(ビジット家庭)</li> <li>・「多数の交流の写真があるので、スライドショーなどにまとめたい」(受入関係団体)</li> </ul>

その他

- 「返還につながる交流になっているのか疑問（ビジット家庭）」
- 「北対協主催の北方領土ゼミナールに学生が参加して多くの学びがあった。今後も参加させていきたい」（大学）
- 「令和4年度作成の写真集が良くまとまっていた」（高校） 等